

# CASBEE® 新築[簡易版]

# 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-NCb\_2010(v.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	障害者支援施設 青谷学園	階数	地上4F
建設地	京都府城陽市中芦原8-1 他10筆	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	100 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年3月 予定	評価の実施日	2011年5月20日
敷地面積	7,718 m <sup>2</sup>	作成者	東條 和彦
建築面積	1,498 m <sup>2</sup>	確認日	2011年5月23日
延床面積	4,363 m <sup>2</sup>	確認者	乾 康雄



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	91%
③上記+②以外の	91%
④上記+	91%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.1**

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Q1のスコア = 2.7	Q2のスコア = 3.2	Q3のスコア = 3.4
音環境: 3.3, 温熱環境: 2.0, 光・視環境: 2.8, 空気質環境: 3.5	機能性: 3.5, 耐用性: 3.0, 対応性: 3.1	生物環境: 3.0, まちなみ: 4.0, 地域性: 3.0

**LR のスコア = 3.1**

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 3.2	LR2のスコア = 3.0	LR3のスコア = 3.1
建物の: 3.0, 自然エネ: 3.5, 設備システ: 3.6, 効率的: 3.0	水資源: 3.0, 非再生材料の: 2.9, 汚染物質: 3.2	地球温暖化: 3.3, 地域環境: 3.0, 周辺環境: 3.1

### 3 設計上の配慮事項

<b>総合</b> 本施設は住宅に近接する施設であるため、近隣への配慮を図ることが最も重要であると考えます。また、施設内においても、ゆとりのある空間造りに努め、日常的にストレスを感じさせないことのない施設としました。	<b>その他</b> 原則、連続バルコニーを設けることでメンテナンスを容易にし、長寿命化を図った。また、既存樹木を可能な限り伐採しない計画とし、一部を移植した。	
<b>Q1 室内環境</b> 複層ガラスの採用、各空間における遮音対応(グラスウールt=50充填)など、音環境において十分な配慮を行った。また、複層ガラスの採用により熱貫流の低い計画とした。天井高さをCH=2800に設定し、ゆとりのある空間とした。	<b>Q2 サービス性能</b> 機能的でゆとりのある階高、天井高さを確保し心理的ストレスの排除に努め、快適な施設づくりを行った。また、鉄筋コンクリート造とし、構造躯体の長寿命化に配慮した。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 建物外観は隣地北側壁面をゆるやかな曲面とし、近隣に対する威圧感などを与えないよう配慮を行った。また、敷地内においては平面緑化を積極的に行い敷地内環境の向上に努めた。
<b>LR1 エネルギー</b> 光庭を設け、自然採光・自然換気を積極的に行った。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 内外装材および電設用ケーブルなど、エコマーク取得材料を積極的に採用した。	<b>LR3 敷地外環境</b> 建物配置は隣地から適切な距離を確保するよう配慮し、照り返しによる光・熱反射を起こさないよう配慮した。また、複層ガラスを採用することで本施設から外部に音を漏らさないなどの周辺環境への配慮を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される